

〔都風俗化粧傳<sup>中</sup>〕黒き顔に白粉をする傳并はきこみおしろいの傳

化粧の仕様は、化粧をせんとする前、額の上、髪の際、首筋のはへぎわ、耳のうしろの生際へ、粉おしろいを、かわきたる刷毛にてとくとこすりつけ置<sup>略</sup>。

〔毛吹草<sup>三</sup>〕攝津 眉作<sup>マユツクリ</sup>

〔女童寶記<sup>五</sup>〕女節用集字づくし<sup>まのばき</sup>眉拂

〔雍州府志<sup>七</sup>〕眉作<sup>マユツクリ</sup> 或稱眉掃、五寸許竹管兩頭挾白兔毛、其末點白粉而粧面顔、其狀如筆頭之亂

良賤婦人以是點白末粉粧面<sup>略</sup>。中 古仁和寺門前有造童形侍兒眉掃之家、依之世專謂仁和寺眉作、於今處々製之。

〔婚禮道具諸器形寸法書<sup>地</sup>〕

大眉箒<sup>下</sup> 大長五寸五分 毛ノ長

中同 中長四寸七分 上一寸程、下九分<sup>ホド</sup>、

小同 小長四寸三分

大上臑 大長三寸七分 同

小上臑 小長三寸二分 上下トモ四分

大小卯毛 大長三寸三分 同上  
小長三寸二分 上九分、下五分、

白ハツシ 長三寸 同同斷

黒ハツシ 長三寸 同、上五分、同、下四分、

〔都風俗化粧傳<sup>中</sup>〕白粉をする傳

額、頬、鼻など、初より付をきて、それを延さんとするが故に、<sup>中</sup>白粉の乾きかたまりて延がたく、光澤を失ひ落付ぬものなり、只一所づ、指に付て段々と延し、よく白粉の行わたる時、<sup>まの</sup>眉